

9【旧古河庭園】こちらも駒込にある美しい庭園。ここはもともと海援隊士出身の外務大臣「陸奥宗光」の別邸であった。 10【平井加尾の墓】・11【佐々木高行の墓】・12【後藤象二郎の墓】・13【白峰駿馬の墓】 実に多くの龍馬関係者が眠る青山霊園。平井か尾は龍馬初恋の人。佐々木と後藤象二郎は龍馬と大政奉還運動に尽力した二人だ。また白峰は海援隊士で、龍馬と共に幕末を走り抜けた。 14【お龍の胸像】横須賀市米が浜通りにある葬儀屋「おりょう会館」には建てられた胸像。晩年のお龍はこの会館の近くの長屋で過ごし亡くなったという。 15【お龍の墓】横須賀市大津の「信楽寺」に静かに眠る。 16【三笠】日露戦争で活躍した三笠は記念艦となり、中も見学できる。



海援隊士をはじめ多くの幕末の志士が眠る「青山霊園（10）」に彼女の墓もある。しかし何とんでも龍馬といえば、その妻である「お龍」であろう。京都「寺田屋」にて、幕府に捕まりそうになった龍馬を、お龍が必死で逃がした話は有名だ。二人はそのまま結婚し鹿兒島へ日本初のハネムーンへ出かけた。温泉に浸かるなどさぞ楽しい日々を過ごしたであ

幕末の英雄といえば何とんでも坂本龍馬であろう。老若男女問わず、多くの人々に人気の龍馬。実は今年はその龍馬ファンにとって特別な年なのだ。何と没後一四〇周年にあたる記念の年なのである。ちなみに命日は十一月十五日で誕生日と同じ。このあたりの運命性も龍馬の英雄たるゆえんであるうが。

龍馬の最愛の妻「お龍」 亡き夫の姿を胸に横須賀へ



さて、現代でも大人気の龍馬であるが、やはり当時も女性にもてたであろう。龍馬には数人の女性のエピソードが残っている。千葉道場の定吉の次女「佐那子」とは婚約を交わしたとも言われており、龍馬の死後も佐那子は独身を通じたという。また龍馬の初恋の人は同郷土佐の平井加尾だといわれている。現在、海援隊士をはじめ多くの幕末の志士が眠る「青山霊園（10）」に彼女の墓もある。しかし何とんでも龍馬といえば、その妻である「お龍」であろう。京都「寺田屋」にて、幕府に捕まりそうになった龍馬を、お龍が必死で逃がした話は有名だ。二人はそのまま結婚し鹿兒島へ日本初のハネムーンへ出かけた。温泉に浸かるなどさぞ楽しい日々を過ごしたであ

起こし、あわや死罪となるところだったが、龍馬が機転を効かして上手く逃がしてやった。何とか難を逃れた琢磨は北海道へと逃亡し、そこでニコライに出会い司教となったのだ。こんな事からニコライ堂の建設に龍馬が繋がっているというわけだ。 せいももう一つが上野の「旧岩崎邸（6）」。



その後、龍馬は新たな舞台を探すべく土佐藩を脱藩し、江戸に出て同じく千葉道場に世話になった。この時期に龍馬は道場主の千葉定吉の長男・重太郎と赤坂・氷川にある「勝海

幕末の英雄といえ何とんでも坂本龍馬であろう。老若男女問わず、多くの人々に人気の龍馬。実は今年はその龍馬ファンにとって特別な年なのだ。何と没後一四〇周年にあたる記念の年なのである。ちなみに命日は十一月十五日で誕生日と同じ。このあたりの運命性も龍馬の英雄たるゆえんであるうが。

その龍馬が始めて江戸に出府したのは十九歳の頃、剣術修行のため「北辰一刀流」の名門「千葉道場」に入門している。ここで龍馬は心身を鍛え、後年ついには免許皆伝を得るまでになったのだ。（とはいももの、龍馬が北辰一刀流の免許皆伝であったという証拠は現存していないのだ。唯一、残っているのは何と「薙刀」の目録のみなのである。）

そして、この龍馬初出府の年に、ペリーが開国を迫って来航して来たのだ。江戸中を騒然とさせたこの騒動に、土佐藩も動いた。ただちに江戸の土佐藩品川下屋敷のあった立会川に「浜川砲台」を築造して黒船対策を開始。江戸にいた龍馬もこの時、動員され沿岸警備の任に就いている。開明派の龍馬もこの当時はまだ攘夷思想で、「異国の首を打ち取ってやる」という手紙を兄に送っている。現在、この下屋敷付近の鮫洲「大井公園」には土佐藩主「山内容堂の墓（1）」がある。

死後一四〇年たった現代でも 人々を魅了し続ける龍馬の足跡

今年には龍馬没140周年の年！
幕末の風雲児が残した足跡を辿る！！

坂本龍馬 RYOMA

みさわとしひろ デザイン・イラスト制作を生業とするかたわら、見つけた銅像は三六〇度写真に取めるというコンセプトのもと、日々幕末スポットに繰り出してはコレクションを続ける。その幕末好きが高じて、オリジナルの幕末グッズも制作している。「絡繰堂」 <http://karakurido.net/>



舟邸（2）」を訪ね、海舟に感化されて弟子入りをしたのだった。現在、雑司ヶ谷霊園には千葉道場の「定吉・重太郎の墓（3）」がある。海舟に弟子入りした龍馬は、水を得た魚のように動きだし、これより活躍の舞台を神戸・京都・鹿兒島等々と移していく。そして遂には「薩長同盟」を演出し、「大政奉還」の実現まで成功させたのだ。

と、このように龍馬の江戸での足跡は、ほぼ歴史に登場する前のものが多く、他にはあまり見られない。だが意外にも東京の明治を代表する二つの建物に龍馬との関わりがあるのだ。その一つが神田湯島の「ニコライ堂（5）」だ。この建設に非常に尽力した日本人初の司祭が山本琢磨。この琢磨は実は龍馬の親戚であるのだが、こんなエピソードがある。琢磨は若かりし頃、酔った勢いで窃盗事件を

TOKYO
街に残る江戸の終焉跡

東京幕末歩き

～品川から神田や上野はたまた横須賀など～

其の⑧ 坂本龍馬

取材・文・構成◎三澤敏博(絡繰堂)

BAKUMATSU WALKING

17【等身大の龍馬とお龍の本像】お龍の墓がある信楽寺本堂に安置されている龍馬夫婦の木造。このような演出は実に嬉しい。

先ほどのお龍終焉の地のすぐ近くにある三笠公園には、まさに日露戦争海戦で活躍した「三笠（17）」が記念艦として展示されている。果たして、龍馬はお龍の夢枕にも現れてあげたであろうか。龍馬没後一四〇年目の秋の夜長に、ふと、そんな事を想うのであった。

には「お龍の胸像（14）」が建立されている。また「お龍の墓（15）」は同じく横須賀市の大津にある「信楽寺」にあるのだが、このお寺は龍馬ファンは是非に訪れたいスポットである。何とこのお寺の本堂境内には「等身大の龍馬とお龍の木像（16）」が安置されており、中に入って観覧することができる。いろいろと史跡探訪している中、こういった粋な演出がされているスポットを見つけると嬉しくなる。素晴らしい！！

と、このように龍馬の江戸での足跡は、ほぼ歴史に登場する前のものが多く、他にはあまり見られない。だが意外にも東京の明治を代表する二つの建物に龍馬との関わりがあるのだ。その一つが神田湯島の「ニコライ堂（5）」だ。この建設に非常に尽力した日本人初の司祭が山本琢磨。この琢磨は実は龍馬の親戚であるのだが、こんなエピソードがある。琢磨は若かりし頃、酔った勢いで窃盗事件を

